

1 年道徳報告書③

1 年主任 佐野修一郎 R3. 5. 27

今回の教材は「あるピエロの物語」です。主題は「信頼と敬愛に支えられた友情」です。サムはトムと友達になるが、忠告し合うかどうかで溝ができ、盗みの疑いを掛けられたトムをサムが信じられなかったことで、トムはサーカス団から去って行くというストーリーです。このストーリーを通して、友情は互いの信頼の上に成り立つと、相手に対する敬愛の念を持ち続けることが大切であることを理解し、友情を培うために自分がどうすれば良いかを考える力を育てることをねらいとしています。

この教材は、かなり深い読み取りが必要で、1年生には難しいと思いました。トムとサムの友情に関する考え方は、善悪ではないのですが、どちらが良いかという意見が多く、信頼や敬愛という主題を捉えきれなかった生徒が多く、指導力不足を痛感させられました。

○トムとサムは、それぞれどのような友達になりたかったのでしょうか。

- ・トムは、怒る事も悲しい事も、おもしろい事も何でも話せる友だちになりたかった。サムは、楽しいことは一緒に話せるけど、相手を相手を怒らせるようなことはせず、仲の良いままが良かった。
- ・トムはお互いに、気遣いや遠慮のない本当の自分同士での友だちになりたい。信頼性。友だちだからこそ。サムは、たった一人の友だちに忠告するのは、嫌われるからイヤ。寂しさを埋めるための友だち。自分の意見を尊重してくれる。



○心に残った友達や先生の言葉を書き留めましょう。

- ・「時にはライバル」やっぱり同じ人間だから、ライバルになることは仕方ないけど、強い友情があるからこそライバルになると思うので、心に残りました。
- ・何でも言い合えるには、限界があると言ったことに「確かに！」と思いました。

○今日の授業で感じたことを書きましょう。

- ・自分は、トムみたいな友だちになりたいなと思いました。相手を信頼できる人になりたいなと思いました。
- ・トムとサムの両方の意見が合わさったら、完璧な親友だと思った。立場によって、友だちとの関わりをサムやトムで分けていきたいなと思った。
- ・友だちって、改めて難しいと思いました。求めている人もいるし、助けてあげたい人もいる。いろんな人がいると思います。そういう人に対して、コロコロと性格を変えるのではなく、あーどういう風にして欲しいんだろうなって、察してあげるのが大切だなと思います。
- ・友だちは、普段から信頼しているし、頼っているけれど、トムとサムの気持ちを考えてみて、私はサムに近いと思いました。これからは、もっと友だちを信頼していく友情が大切であると思いました。
- ・信じ合えて、時にはライバルな人が本当の友だちだと思った。何でも言い合えることも大切だけど、何でもには限りがあり、注意や指摘のようなことは言い合える良いと思った。
- ・本当の友だちとは、信じ合える、時にはライバルになり、愛があり、助け合う、何でも言い合えるものなんだなと感じました。友だちに悪口を簡単に言うってしまうけど、大切にしていかなければいけないと思いました。
- ・本当の友情は、お互いに悪いと思うことを直すように言えることだと思えます。でも、遠慮なしで言うのは、友情とは言えないと思えます。
- ・友だちは、優しくするだけでなく、為にならないことはダメと言って、何でも言い合えるのが本当の友情と言えらと思った。



----- キリトリセン -----

ご意見・ご感想をお待ちしております。今後の授業計画の参考にさせていただきます。

お子様の名前 ()

○「道徳報告書②」への保護者からの感想

- ・親は子どもの命が何よりも1番大切に、子どもの命を守るためなら何だってできるという親がほとんどだと思います。大きくなってくると言わなくても分かってくれると親は思ってしまうがちですが、「生まれてきてくれありがとう」は大人になっても伝え続けたいと思います。
- ・生命の重さと自分という存在の大切さがわかる授業だと思います。自分や家族との関係や存在を改めて実感して、これからの人生も大切に過ごしてほしいです。
- ・今、自分が生きているという事を当たり前だとは思わず、命をかけて産んでもらった事を忘れないでほしいです。
- ・今回の道徳の内容を自分の産まれた時に置き換え、新たな考え方、思いが出てくる事を祈っています。生命の尊さ、大事さを再認識してもらえたら良いと思います。あとは、自分自身だけでなく他者にも同じくらい優しくしてほしいと思います。
- ・今ある自分の命を大切にしていって欲しいです。生命の尊さを学んで、命は儚いものだけど、両親から生まれて初めてもらう最初のプレゼントだと思うので、大事に大切にしていって欲しいです。
- ・これからの人生で楽しい時、辛い時に今回の授業で感じた事を思い出して、自分を大切に強く生きて欲しいと思います。
- ・元気な赤ちゃんが生まれてくる事が当たり前ではなく、とても尊い事である事、自分が生まれた時に、周囲の人がどれだけ喜んだか、改めて考える良いきっかけになったと思います。



「あなたに」は、子に対する母の気持ちを表した作品でした。親は子が、苦勞を分かっていると思いがちですが、子は親のすることは当たり前だと思っているものです。この作品によって、当たり前なものなど、何もないことを生徒に伝わると良いと思います。親の苦勞を知ることによって、自分たちが何をなすべきで、何をしてはならないのかを考えて欲しいものです。私も親の一人として、せつに願います。

道徳報告書のご感想やご意見を募集しています。今回の「あるピエロの物語」のご感想とご意見をお待ちしています。どのような作品であったかは、ぜひ、生徒からお聞きください。親子で友情に関して考える良い機会になるとと思います。